

書記長集約 (要旨)



16名の代議員の皆様から貴重な発言、叱咤激励をいただいた。

安全問題について

安全問題は苦しまれているのが現状である。要員不足では安全は守れない。紀勢エリアで避難があったが取り残されている箇所もあった。それでは安全な体質とは言えない。ワンマン運転が増えているが安全最優先ではない。乗務員の清掃について発言があったが、この間「乗務員に負担をかけて安全は守れない」ということを訴えてきた。本社役員も「負担をかけないように

考えていく」と回答した。今大会の意見も踏まえ要求を提出し交渉を行なっていく。技術継承が出来ていない現状に対する発言があった。鉄道の技術は長年培って出来るものであり安全最優先の技術力の継承をするためには余裕ある要員がいないと出来ない。

福知山線脱線転覆事故から20年が経過、西日本本部としても4月26日に集会を行なってきた。この間、安全とは、安心とは、ということも訴えてきた。会社がしっかりと労働者のことを思い、利用者のことを思い、より良い施策を考えるように労働組合の視点でしっかりと対応していかなくてはならない。この間、同じく主張してきたのが「現場闘争」である。「職場から全

春闘について

組合員で奮闘しよう」ということを訴えてきた。現場で声をあげ、解決しないこと、問題点などあれば上部機関に上げていただき闘っていく流れをつくらないと出来ない。しっかりと一人一人が闘えることが重要であり、JR採用者への教育にもなる。闘う姿を見せること、JR採用者が自分たちで思うように運動が出来ることが必要である。労働人口減少を理由に、ますます安全面の低下やサービスの低下をさせる施策が考えられる。その歯止めをかけること、考え方を考えさせ、しっかりと行なっていくことが重要である。

ストライキをするかしないかというのは中央戦術委員会でも議論し、中央執行委員会の判断となるが、今回は現場の声をしっかりと地方本部が取り組んだことを訴えてきた。ストライキがやりたいとかやりたくないというような議論はしていない。どうなればストライキをやるのか、どうすればストライキができるのか、をしっかりと議論していただきたい。もちろんストライキをやるにしても自分たちの要求だけでなく、世の



中を巻き込んだ運動が大事であり、地域と連帯しての運動をしたい。今後現場の声を届けていく、交渉に活かしていく決意である。

公共交通について

方針にも記載をしているが、三年を目途に存廃の方針を示すとしており、私たちは国鉄分割民営化反対を多くの仲間の犠牲を出しながらも闘ってきた「国鉄労働組合」であり、鉄道路線維持の為に公的資金支援制度の拡充や地域公共交通の持続的な安定経営が図れるように国の関与に向けた取り組みなどを行ない、鉄路を守らせる運動が必要である。本部と連携して国交省要請もしているが、地方の運動が全国の運動へと変化してきている。訴えて変えていくことは必要であり全国単一組織で出来ることをこれから主張していく。

組織拡大・強化

組織では、本部の闘争指示のもと奮闘してきた。全地方での拡大とはなっていないが、地方間を超えて拡大運動が出来て拡大にいたったことは大きな前進である。できなかったところは、なぜできなかったのか、どうしたらできるのか、何をすべきなのかをしっかりと考えていただきたい。できたこと、やったことも総括し、教訓にして頂きたい。皆さんは国労が減っていくと見ていないか。現実だけを見るとそうかもしれない。しかし、展望をもち、そこに向かって運動を考えないといけない。確かに現実・現状は大事であるが、前進させるためには、組織を少数派から多数派にするためには、前を見て一歩踏み出さなければならぬ。1人の100歩より、100人の1歩が大事である。その

ために自公政権が野党の分断をはかるなど、さまざまな動きが想定される。改憲派の動きを含め今後しっかりと注視しないと日本も「戦争する国へ」変化してしまう。平和な世の中、平和な世界、戦争の無い世界へ、国民や民主団体と連携して前進させる必要がある。

ためにも「全組合員運動」を訴えてきた。全組合員が団結し、次は全員で1歩踏み出す時である。本部が勧めるTUNAGアプリを活用し、情報発信をスピーディに行ない、役員の負担軽減を行ない、全員でまずは1歩を踏み出すではありませんか。限られた組合員の数で出来ることを最大限行ない前進させ、機関として活用できるものは活用し、次の前進をさせていくのではありませんか。苦手なもののだからと離れるのではなく、組織を多数派にしたいため、今のJR採用者の未来の為に興味を持っていただきたい。苦手を克服し、組織の多数派に向けて共に奮闘することでJR採用者の負担は軽減される。軽減されることでまた違う1歩を踏み出すことが出来る。大変だとは思いますが、希望を捨てず明るい未来にするために是非協力をお願いする。ホームページの活用、SNSの拡大、組織運動の前進を全組合員で奮闘できるようにその先頭に立つ決意を申し上げるとともに、先輩方とともに国労の旗、国労の運動を守りぬく決意を申し上げ集約とする。



2025年度 執行部体制			
役 職 名	氏 名	地本名	任 務 分 担
執行委員長	植田 重信	近畿	総括、総務、法対
執行副委員長	藤野 能章	北陸	業務総括
執行副委員長	大和 忠昭	近畿	財政部長、貨物担当部長
書記長	大北 真也	近畿	企画部長、共闘部長、家族会 教育宣伝部長、共済担当
執行委員	倉下 文明	米子	業務、中国統括本部担当
執行委員	中本 博次	近畿	調査・福祉対策部長
執行委員	伊野 活行	近畿	組織部長、賃金対策部長
執行委員	河野 宏幸	近畿	業務部長
執行委員	波見 健一	近畿	業務、組織
執行委員	谷澤 由紀恵	近畿	青年・対策部長、組織
会計監査員	石割 嘉夫	近畿	
会計監査員	小川 拓人	近畿	